

『パウロの祈り④・キリスト論』

'22/04/03

聖書箇所:エペソ人への手紙 1章 20-23節(新約 p.374)

何度も繰り返して申し訳ありませんが、ここ最近、多くのキリスト教会では、あの「ヤベツの祈り」という本の影響もあって、「私たちクリスチャンは、もっとも神様に、自分自身の祝福を祈って良いのだ！いや、もっと神様に、私を祝福してください！ということ祈るべきだ！」ということを教える傾向にあります。しかし、ここ最近、私たちが学んでいるみことばは、そういったことは全く正反対のことを教えてくれました。…と言いますのも、聖書のみことばは、すべてを御存知の神様が、私たち…、救われたクリスチャンたちのことを気に掛けてくださって、今もう既に、素晴らしい祝福を与えてくださっているからです…。

命題:パウロが、小アジアにある教会のために祈った内容とは？

少し前の礼拝から、私たちはエペソ書 1章後半に記されてある「パウロの祈り」から、当時、ローマで軟禁状態にあったパウロが、どんなことを神様に祈っていたか？その祈りの課題について、学んできています。そうすることによって、現代に生きる私たちクリスチャンたちが目を留めるべきこと…、あるいはまた、神の前に優先すべき事柄について学んでいこうとしています。

今日は、その4回シリーズの最後の学びとなりますが、これまでに学んできたことを簡単に復習していつて、エペソ書 1章の学びを終えていきたいと思ひます。さて、皆さんは、どの程度、覚えてくださっているでしょうか？

I・救われたクリスチャンに関する 感謝 ! (15-16節)

まず、3週間前に学んだことですが、パウロという人物は、自分がローマの地で軟禁状態であったにも関わらず、祈る度ごとに、小アジアで救われたクリスチャンに関する「感謝」というものを、神様に捧げている！ということ学ばました。…と言いますのも、パウロにとって1番の優先順位は、イエス様を信じる信仰によって人々が救われることでありましたが…、小アジアの教会は、その信仰による救いを証明するようなものであったからでした。パウロは、小アジアのクリスチャンたちに、イエス様のことを信じた時に、伴なうはずの「同じ信仰を持って救われた、クリスチャンたちに対する兄弟愛」を見ることができて、そのことを神様に感謝したのです。今回のみことばの内、15-16節には、こう記されてあります。

15 こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、

16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。

あのパウロが考えていた本物の救い…、それは、単なる口先だけの信仰告白だけでなく、「同じクリスチャンたちに対する兄弟愛」という行ないが伴ったものでありました。いえ、パウロだけではありません！この聖書全体が、本物の信仰には、必ず、その信じた内容に沿った(応じた?)“変化”が起こる！ということ教えてくれています。

良いですか？皆さん！…本物の信仰というべきものは、必ず、私たちの生き方や価値観、あるいは、私たちの人生の目標までも変えるほど、大きな変化を起こします。だから、IIコリント 5:17のみことばは、こう教えてくれるわけです、『だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』って…。

II・ますます、神様に関する 霊的理解 が増すように！(17節)

その次に学んだ、パウロの祈りの2つ目の内容…。それは、ますます、小アジアにある教会メンバーの、神様に関する霊的な理解が増していくことでした。17節には、こうあります。

17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。

ここでパウロが祈った内容は、「どうか、神様！小アジアのクリスチャンたちに聖霊を与えてください！」といったものではありませんでした。…と言いますのは、もう既に救われたクリスチャンたちには、聖霊なる神様が内住している(=内に聖霊が住んでくださっている)からです。

実は、ここ 17節で、『(神を)知る』と訳されてあるギリシア語の言葉(ἐπίγνωσις)は、通常の知識に対して使われる言葉(γνώσις)に比べて、さらに深い十分な知識のことを指す言葉が使われているのです。パウロは、救われた小アジアのクリスチャンたちが、益々、神様に対する深い理解というものが、増していくことによって、彼らもまた霊的に成長していくことを願っていたのです。…と言いますのも、私たちは、神の与えてくださる真理を知ることによって、例えば、周りの環境がどのようなものであったとしても、神様の与えてくださる平安や感謝を持ち続けることができるからです。

また、その時の礼拝で、私たちはヤコブ書 1章のみことばから、確かに、霊的な成長は神様がもたらしてくれるものですが、私たちの側にも、かなりの責任があるのだ！ということも学びました。

III・与えられた祝福に対する 認識 ! (18-19節)

そうして、3回目となる先週に学んだことは、与えられた祝福に対する認識！について、でした。今回のみことばの内、18-19節で、パウロは、イエス・キリストを信じたクリスチャンたちが、その心の目がはっきりと見えるようになって、彼らの霊的な事柄に関する認識が変わりますように！ということ祈っていました。18-19節には、こうあります。

18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、

19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができるようになりますように。

良いでしょうか？皆さん？ここで、パウロは、小アジアのクリスチャンたちの、『心の目がはっきり見えるようになって』、彼らが3つのことを『知ることができ』るように祈っています。今日はもう時間の関係もあって、それらを詳しく見ていくことはしませんが、簡単に言うと、神様の与えてくださった祝福に関する、言わば、“正しい認識”です。だから、パウロは、「彼らの心の目がはっきり見えるようになりますように！」ということ祈ったのです。

良いですか？皆さん！ 私たちに必要なのは、あのパウロが祈ったように、様々な物事を、まるで、神様が御覧になるような視点で見ることができるよう“霊的な目”なのです。…言い換えれば、私たちの病が癒されることでも、あるいは、私たちの欲しい物が与えられるようなことでもありません！…と言うのも、神様は、もう既に、私たちに素晴らしいことをなしてくださっているからです。

だから、あのパウロも、かつては、「自分の肉体のトゲを神様に癒してくださいませように！」ということ祈ったけれども、いや、そのままが最善である！ということ、神様から学ばせられたわけでしょう？…そこまですが、ここ3週間の礼拝で学んだことでありました…。

IV・キリスト に関する正しい理解 ! (20-23節)

さて、ここ3週間分の復習が少々長くなりましたが、今から、エペソ 1:20-23 に記されてある、パウロの祈りの…、4つ目の課題について学んでいきましょう！それは、イエス・キリストに関する正しい理解…、言わば、キリスト論に関することでありました。パウロは、救われたクリスチャンたちが、ただ単に、救われたということだけに留まるのではなく…、イエス・キリストに関して、ますます正しい理解を深めていくことを期待し、そのことを祈ったのです。今回のみことばの内、20-23 節には、こうあります。

- 20 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、
21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。
22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。
23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

①イエス・キリストは神である！（20-21 節）

まず、ここ 20-21 節では、どんなことが教えられているのでしょうか？…この文章を簡単にしてみますと、「神、すなわち、父なる神が、キリストをよみがえらせ…、御自分の右の座に着かせて…、最高の栄誉をお与えになった」ということです。…ところで、皆さんは気付いてくださっていますか？実は、パウロは、ここ 1 章の最後に至るまで、ずっと、父なる神様を中心に、私たちの救い…、私たちに与えられた祝福というものを説明してくれています。だから、例えば、3 節でも、『私たちの主イエス・キリストの父なる神…』というような表現があるわけです。

一体、どうしてなのでしょう？⇒それは、この父なる神が“すべての源、すべての始まり”であられるからです。…と言うのも、もう既に私たちが学んだように、そもそもは、この父なる神様が、私や皆さんのことを世界の基が置かれる前に選び、救いの計画を立てて、それをイエス様が実行に移してくださったわけでしょう？

でもね、皆さん。ここ 3 節に書かれてあるような、『私たちの主イエス・キリストの父なる神…』というような表現を見せようと、ひょっとすると、ある方たちは、「イエス・キリストは神ではないのか？何か、神様よりも劣る存在なのか？」というような疑問が出てくるのかも知れません…。だから、パウロは、こういった部分で、そういった反論に答えようとしてくれているのだと思います。イエス・キリストは、間違いなく、神であられる！って…。

少しづつ、20 節から見ていきましょう。20 節にこうあります、『神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ…』とあります。前回、19 節で学びましたように、神様は、様々な「力」という言葉を用いて、私たちが安心させようとしてくれています。ここ 20 節で言われているのは、『その全能の力』のことです。神様は、御自身が御持ちの、全能の力を用いて、キリストを…、イエス様を、その死よりよみがえらせてくださった…。ここでは、そういったことが教えられているのです。

じゃあ、やっぱり、イエス様は神様ではないのでしょうか？あるいは、神様に何か劣るような存在だったのでしょうか？⇒いいえ！イエス様は、私たちと同じ人間でありながら、同時に神であられました。だから、ピリピ 2:6-7 にはこう教えられています。『6 キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。…』

⇒ここで教えられてあることは、間違いなく、キリストは神であられる！ということです。いつも言いますように、ここで使われてある『御姿』(μορφή)というギリシア語の言葉は、「外見上の形だけでなく、実質

や本質を表わす言葉」で、…要は、キリストは正真正銘の神であられる！ということです。…でも、神であられるイエス様は、通常の『神のあり方』(=神であるから、こうでなければならないというような制限)には固執されないで、『ご自分を無にして…、人間と同じようになられた』、つまりは、神としての能力や特権を放棄されたということです。だから、イエス様は、様々な困難や誘惑などの時に、神としての全能の力を御使いになられなかったのです。それは、イエス様が、そういった力を一時的に放棄されていたからであり…、それと同時に、私たちクリスチャンの模範でもあられたからです。私たちも、イエス様と同様、様々な困難や誘惑に遭った時、神の全能の力で環境を変えることによってではなく、人間として…、イエス様のように、正しい信仰やみことばによって勝利することができるのです。

パウロがこのエペソ書を書き送った頃…、一部のクリスチャンたちの中で間違っただけを教える者たちが居ました。彼らは、「聖書のみことばは、イエス・キリストを神であるとは教えていないし、また、イエス様ご自身も、ご自分が神であるとは言ってはいない！」と教えたのです…。現代でも、このように考える人たちがいます。例えば、「エホバの証人」と言われる人たちがそうです。しかし、それは明らかに間違いです。

どうぞ、皆さん、ヨハネ 10:28-33 をご覧ください。『28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。30 わたしと父とは一つです。』31 ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。32 イエスは彼らに答えられた。「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ちにしようとするのですか。」33 ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざのためにあなたを石打ちにするのではありません。冒涇のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。』

⇒良いですか？皆さん。この時、イエス様は、天におられる父なる神様のことを、『わたしの父』と表現しました。普通のユダヤ人なら、「私たちの父」と言うべきだったのです。また、その後、30 節で、イエス様は、「ご自分と父なる神様とが一つである！つまり、一体である！」と主張しました。それはつまり、イエス様が父なる神様と同様、神である！という主張です。…だから、当時、イエス様の言葉を聞いたユダヤ人たちは、「イエス様が神を冒涇した！」と言って、イエス様のことを石打ちにして殺そうとしたのです。…そうでしょ！

イエス様は、正真正銘、真の神であられます！全能者であられます！…私たちが、こういった正しいキリストに関する理解…、つまり、正しいキリスト論を持つことがないと、私たちは、せっかく、神様がお与えようとしてくださっている希望や平安といった祝福を逃してしまうばかりか、最悪の場合、救いさえも逃してしまう可能性があります！だから、私たちは、聖書の学びを決して、ないがしろにはいけないのです。

その後、今日のみことばの 20 節では、こう続いています。『天上においてご自分の右の座に着かせて…』…実は、つい先程引用した、ピリピ 2:8-11 には、こうあります。…キリストは、『8 自分を卑し、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめ、11 すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。』

⇒このピリピ書のみことばも、また、エペソ書も同じことを教えてくれています。すなわち、神は、イエス・キリストに最高の地位を、名誉をお与えになられた！ということです。今日のみことばには、『右の座』とありますが、これは当時、王などの権力者のすぐ横に座ることのできた者が、王から最高の名誉や地位、また、特権をお与えられたことに由来します。その場所…、つまり、王の横に座ることができたのは、王様が

最高の栄誉を与えた人物で、王と共に国を治めようとする…、そのような人物だけにしか許されていませんでした。しかも、その右側とは、左よりもさらに優れた地位を表わしているのです。

その後の 21 節も、基本的には同じことが教えられてあります。ここで言われている『すべての支配、權威、権力、主権…』と言いますのは、天の御使いや、あるいは、御使いが支配していると当時考えられていたのですが、今日は時間が無いので、申し訳ありませんが割愛させていただきます…。

②父なる神は、イエス・キリストを教会に与えてくださった！(22-23 節)

どうぞ、今度は、22 節をご覧ください。『また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。』⇒みことばは教えてくれます、「何と、父なる神様は、そんな偉大なるイエス・キリストを、あなた方…、教会に与えてくださったのですよ！」って…。

ここ 22 節にある、『いっさいのもの』とは、文字通り、すべてのものを指します。つまりは、ここに出てきている、父なる神とイエス・キリスト以外…、すべてのもの！すべての存在のことです。言い換えるならば、すべての被造物と言い得るかも知れません。実は、それとよく似たようなことが、I コリント 15:27 でも…、また、ヘブル 2:8 でも教えられてあります。神であられるイエス様は、当然、その他の如何なるものをも従わせ…、それらの上に立つべき『かしら』なのです！

でも、注目すべきは、その後です！何と、父なる神は、そのイエス様を、この教会…、つまり、この八田西 CC に与えてくださった！と言うのです。…もちろん、この教会だけでなく、イエス様によって救われたすべての集まりである教会も同様です。

実は、私は少し前、経営困難に陥っていた USJ(ユニバーサルスタジオ・ジャパン)を、見事、V 字回復させたある敏腕経営者(森岡毅さん)のことを取り上げた TV 番組を観ました。その方は、USJ だけでなく、一時期売り上げが落ちていた丸亀製麺や西武園ゆうえんちの経営も、見事に回復させたそうです。多分、皆さんも、あるカリスマ経営者によって、会社や団体が立ち直った！というような話を聞いたことがお有りだろうと思いますが…、でも、神様は、そういった存在として…、いえ！それ以上の存在であるイエス様のことを、この教会に与えてくださった！と言うのです。

いつも言いますように、教会のトップ…、つまり、教会のかしらは牧師でも、会員総会でもありません。イエス・キリストこそが、教会のトップなのです。だから、私たちは、常に、イエス様のみこころを求めて、聖書のみことばに沿って、この教会を維持…、また、運営していくべきなのです！そうでしょ！…せつかく、神様が、この教会にも、イエス・キリストという存在を与えてくださっているのに、私たち教会が、そのイエス様のみこころに従うことをしないで、自分たちの勝手な価値観や意見に従っていくとどうなるでしょう？

今日のみことばの最後、23 節にはこう教えられてあります、『教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。』って…。教会のかしらがイエス様で、その体が教会であるならば…、本来、私たちは、かしらであるイエス様の意志通りに行動すべきです。しかし、もしも、私たちが、神様のみこころを求めることをせず、自分たちの勝手な考えに沿って、歩んでいくなら、この教会はどうなっていくでしょう？…答えは言うまでもありません。

いかがでしょうか？皆さん。確かに、私たちは今、聖書のみことばを語っているかも知れません。しかし、私たちの行ないにおいてはどうでしょう？⇒例えば、私たちが言葉では、「神様は聖い御方です！」と言いながら、私たちが罪を軽々しく扱っていたら、それは、私たちが行ないで、「私の信じている神は、聖い御方ではない！」というメッセージを発していることになりませんか？あるいは、「神は愛である」と言いながら、

私たちが偏った愛し方をしてはいないでしょうか？自分と仲の良い人は愛するけれど、そうでない人は困っていてもお構いなしとか…。あるいは、「真の神様は赦しの神である」と言いながら、私たちは、人にされた悪をいつまでも赦さないで裁き続けている…、なんていうことはないでしょうか？

クリスチャンである皆さん…。間違いなく、皆さんの周りにいらっしゃるノンクリスチャンの方々は、私たちの語る言葉だけではなく、そういったこともご覧になっておられるはずですよ！いくら、私たちが練習を積んだ流暢な言葉で話したとしても…、私たちの行ないでそれを否定していたのでは、全く、良い証しにはなりません…。大切なのは、あのペテロも、I ペテロ 3:1 で、『同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。』と教えるように、私たちが言葉と行ないでもって、主を証ししていく！ということではないでしょうか？

また、あのイエス様も、こう教えてくださったでしょ！マタイ 5:16、『このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』って…。確かに、私たちのいい加減な行ないがあっても、人々が救われることもあります。でも、それらは単なる結果論であって、神様のみこころは、私たちが行ないを伴った、良い証しを通して、救いのメッセージを伝えていくことです。そんな務めが、私にも！また、皆さんにも与えられているのです！

どうか、皆さん。安心して下さい。もう1度、今日のみことばの 23 節をご覧くださいと、こうありますでしょ！『教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。』⇒教会というところには、神であられるキリストが満ちておられ…、そのキリストはすべての必要を満たすことができになる！とみことばは教えてくれています。

ですから、クリスチャンの皆さん！恐れないでください！全能なる神様は、私たちと共に居てくださっているのです。そして、私やあなたに必要な力を…、また、助けを与えてくださるのです。イエス様は、最後、昇天される少し前に、弟子たちに、こうおっしゃられましたでしょ。マタイ 28:18-20、『18 …わたしには天においても、地においても、いっさいの權威が与えられています。19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』

⇒良いですか？イエス様には、『天においても、地においても、いっさいの權威が与えられています。』…ですから、私たちの身の回りに起こることで、イエス様の知らないことはありません！イエス様がお許しになっていないことは、決して、私や皆さんに起こるはずがないのです！…と言いますのは、私たちには、全能者なる神様が…、また、イエス様が常に共に居てくださっているからです。そういった理解も、「キリスト論」の一種です。

私たちがこういったことを忘れてしまうと…、「神様、こんな弱い者が神様の栄光を現わすなんて到底無理です！」とか、「神様、私はもう年老いていますから…。私は健康ではありませんから…。」と、いろいろな言い訳をしてしまいます。…しかし、みことばは、はっきりと教えてくれています。神様は、私を、また、あなたを選んでくださった…。神は世界を造る前から、クリスチャンである皆さんのことを選び、素晴らしい祝福や約束を与えてくださった…。しかも、それらを、私たちは自分自身の力や努力で得たのではなく、神が与えてくださったのです。そして、神様は、こんな私たちを通して、御自身の栄光を現わそうとしておられます。しかも、そのために必要な力は、先週の礼拝でも学んだように、もう既に、私にも…、皆さんにも与えられているのです。だから、私たちは誰一人として、「神様、私には力がありません！私は、あなたが目的としているような…、神の栄光を現わすことができません！」などとは言えないのです。

●なぜ、私たちクリスチャンは、日々の生活において様々なことで悩み続けるのでしょうか？

でも、実際には、多くのクリスチャンたちが罪の誘惑に負けてしまい…、数々の失敗を犯して今います。では最後、何故、私たちクリスチャンは日々の生活において、様々なことで悩み続けるのか？ということについて、考えていきたいと思います。⇒4つのことが考えられます。1つ目は、まず私たちがまだまだ霊的な部分においては盲目である、ということです。私たち人間は皆、今現在…、目先のことしか見えないのです。そうでしょ！…例えば、聖書のみことばは、こんなことを教えてくれています。マタイ 5:10-12 で、イエスは、非常に興味深いことをおっしゃっておられます。『10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。 11 わたしのために人々があなたがたをのしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。 12 喜びなさい。喜びおどりなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。…』と…。

⇒皆さんが日々の生活の中で、様々な迫害や苦しみを経験される時…、神はそのことを覚えていてくださっているのです。天において、神様はその行ないに対して、確実に報いてくださるのです。神様の前に私たちが正しいことをする時に、神様は確実にそれらを覚え、それに対するごほうびを用意してくださるのです。…なのに、私たちが、今現在の…、この地上のことしか見ていなければ、確実に私たちの信仰というものは揺らぎます。そうではなくて、先を見てください！そして、私たちを救い…、私たちを導き…、私たちに、こうして力を与えて支えてくださる神様を見上げるようにしてください！

2つ目は、私たちが、この神様のみことばというものをあまり知らないからです。…ですから、様々な誘惑があった時、私たちは、みことばでその誘惑に打ち勝つことができないのです。イエス様ご自身が悪魔から誘惑を受けられた時…、イエス様は神としての力を使って勝利したのではなく、みことばによって勝利されましたでしょ？詩篇 119 篇の作者は、私たちにこう教えてくれています。『あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。』（詩篇 119:11）って…。みことばによって私たちは日々、様々な罪や誘惑に対して勝利していくことができます。皆さんは、みことばを蓄えてくださっていらっしゃいます？ただ単に、みことばを暗唱すれば良いではありません。聖書のみことばは、呪文の一種ではありません。だから、私たちがちゃんとした正しい理解を持たないと…、あなたの強い確信が無いと、正直、みことばは本来の力を発揮しません。皆さんは、しっかりと、みことばを学び…、それを確実に、ご自分のものとしていかないといけない！確実に、その心に刻まないといけないのです！

3つ目…、私たちはすぐに、自分の力に過信してしまうからです。イスラエルの人々が罪を犯した時、神様は裁きを下されました。イスラエルの人々は、ミデヤン人から7年もの間、苦しめられました。でも、彼らが悔い改めようとした時、神様はギデオンを遣わされました。神は、ギデオンを用いて、イスラエルの人々を解放しようとしたわけですが、しかし、ギデオンが、32,000 人の民を集めた時、主はギデオンに何とおっしゃったでしょう？⇒士師記 7:2、『あなたといっしょにいる民は多すぎるから、わたしはミデヤン人を彼らの手に渡さない。イスラエルが『自分の手で自分を救った』と言って、わたしに向かって誇るといけません。』と、主はおっしゃられました…。

また、申命記 8:17 で、モーセは民にこんな警告を与えています。『あなたは心のうちで、『この私の力、私の手の力が、この富を築き上げたのだ』と言わないように気をつけなさい。』⇒私たちが信仰生活を歩んでいく時、自分自身の力で歩むのか？それとも、神の力に頼って歩むのか？そのどちらかです。しかし、もし私たちが信仰生活において神の力に頼りつつ歩まないで、自分の力を過信して歩んでいるのなら、そこには必ず挫折や失敗があります…。

最後、4つ目…、私たちが、神様の全能の力をいただくことのできない理由は、私たちの罪です。私たちがの中に罪があるのなら、神様は確実にその祝福を…、力を…、あなたに与えることはなさいません…。あのイスラエルの民、ヨシュアに率いられたイスラエルは、「アイ」という町で敗北を喫しました…。本当なら、確実に勝てるはずでした。しかし、イスラエルは敗れたのです。そこに、大きな罪があったからです。それは、アカンという人物が、主の契約を破り、聖絶のものの中から取り、盗み、偽って、それを自分たちのものの中に入れたからだったでしょ？

主は、ヨシュアにこうおっしゃられました、ヨシュア記 7:12-13、『12 …あなたがたのうちから、その聖絶のものを一掃してしまわないなら、わたしはもはやあなたがたとともにはいない。 13 立て。民をきよめよ。そして言え。あなたがたは、あすのために身をきよめなさい。イスラエルの神、【主】がこう仰せられるからだ。『イスラエルよ。あなたの中に、聖絶のものがある。あなたがたがその聖絶のものを、あなたがたのうちから除き去るまで、敵の前に立つことはできない。』って…。アカンの罪が裁かれた後…、イスラエルの人々は、神によって、また勝利を得ていくのです…。

<励ましの言葉>

このように、私たちは、聖い神様を信じ…、聖い神様に仕え、導かれている！ということ忘れてはなりません。それは、私たちが“縛り付けるような鎖”ではありません…。私たちに与えられた祝福なのです。そのように、神様が聖いから…、神様がすべてのことをお見通しであるから、私たちが聖く…、自分を戒めつつ…、正しく生きていこうとすることができるのです。神様は、そうやって、私たちがある時には戒め…、ある時には励ましてくださって、私たちを導いてくださっているのです。

どうか、クリスチャンの皆さん。どうか、いつも、この神様のみこころを求め…、そのみこころに従う者となっていってください！…と言いますのは、そこにこそ、私たちが1番に追い求めるべき祝福や、私たちが追い求めているような喜びや平安があるからです。

それと、まだ、イエス様を信じておられない皆さん。天の神様は今、あなたのことを救い…、罪に勝利する力を与え、素晴らしい祝福でもって、あなたのことを満たそうとしてくださっています。しかし、そこに欠かすことができないのは、神が遣わしてくださったイエス様のことを信じる信仰であります。どうか、そのことを先延ばしにするのではなく、1日も早く、神様の与えてくださる最高の恵みである救いを、ご自分のものとしてください…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。